

クローズアップ
 ～今を生きる 人こそが宝～
 第2回

家具工房たいむ

佐藤 順一 (さとう じゅんいち) さん

～いつでも明るく楽しいひととき(たいむ)の手助けをしたい～

家具職人への転機
 祖父の職業は大工。小さな頃から物づくりが大好きで、家にある道具を使い、木を削ったり、のみを使ったりするなど、物づくりが出来る環境がすぐそばにあった。しかし、大学卒業後は、横浜でサラリーマン生活を経験。このように、小さな頃から感じていた家具作りや木のおもしろさ

を忘れることができず、神奈川県博物館で行われていた、故砂澤ビツキさんの作品展に足を運ぶことになる。ここでの木工芸術のすばらしさに大きな衝撃を受け、家具職人へへの大きな転機がすぐに訪れることになった。

和寒での家具工房
 家具職人としての技術を習得するため、北見高等技術専門学院造形デザイン科で基礎的な技術を学ぶ。その後、剣淵町で家具職人を行っている家具工房ニングルの吉田秀造氏に師事。本格的な家具職人としての道がスタートすることになる。そして、剣淵町で『家具工房たいむ』という工房を構え、独立を果たすことになるが、より良い環境で家具作りを行うために、和寒町の旧中和小学校跡地に工房を移すことになる。

佐藤さんが作る家具の特徴は、やわらかい曲線と直線とのバランスを意識したもので、一つの作品に対して、全て一本の木から製作される。そのため、木の種類や材質、色などの統一感があると同時に、ぬくもりのある親しみやすいデザインが特徴。木の選定から製作までの全てに関わり、完全な受注生産であることから、多くの家具利用者から喜ばれている。

将来の夢

これらの家具は、剣淵町の家具ショールーム『森の刻』(剣淵町西岡町)や札幌市内のホクレンホームセンターで展示販売を行っている。今後は何人かのスタッフとともに、工房を運営していきたい。そこから、お互いの感性に刺激を受け、これまで以上の良い作品を製作し、多くの利用者に愛用され、いつでも明るく楽しいひとときの手助けができればと夢を語る。



家具は、生活の中で一番身近なもの。使いやすくて親しみやすく、愛着の持てるものが喜ばれている。佐藤さんが作る家具はどれも旭川市内の木材業者や銘木市などで仕入れた道産材が使われている。ニレ、セン、クルミを中心としたテーブルや椅子のほか、ローボード、コンソールといった家具を製作。
 第6回暮らしの中の木の椅子展でも入選を果たしている。

これらから、お互いの感性に刺激を受け、これまで以上の良い作品を製作し、多くの利用者に愛用され、いつでも明るく楽しいひとときの手助けができればと夢を語る。







佐藤 順一さん[家具工房たいむ] 41歳
 和寒町字中和220番地 TEL0165-32-2515
 出身：札幌市
 経歴：1992年小樽商科大学商学部経済学科卒業。1996年保険会社勤務(横浜)。
 1999年北見高等技術専門学院造形デザイン科卒業。同年家具工房ニングル(剣淵)吉田秀造氏に師事。
 2001年家具工房たいむにて独立。
 趣味：ツーリング